



## 2019年度 カブトガニ幼生生息調査結果



### 1 調査方法

#### (1) 調査場所

山口湾において砂泥質で生息数が多い『長浜』・『南潟』(図1)。

#### (2) 調査手法

設定した調査ライン上を1～3人で歩き、1ライン当たり2m幅で発見したカブトガニ幼生について、①個体数、②前体幅(図2)、③発見地点を記録しました(ベルトトランセクト法)。

長浜では16m間隔で20ライン(1,020m)、南潟では60m間隔で5ライン(1,000m)で実施。

#### (3) 調査日時

- 長浜：2019年8月31日 12:00～16:00 (大潮・最干15:23)
- 南潟：2019年9月2日 14:30～17:00 (大潮・最干16:47)

#### (4) 調査人数

- 長浜調査：60人
- 南潟調査：11人



図1 調査場所

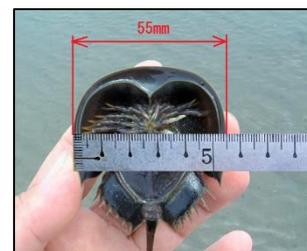


図2 前体幅の計測

### 2 調査結果

#### (1) 発見個体数

『長浜』で662個体、『南潟』で193個体が確認されました(図3)。昨年度よりも若干減少しました。これは、干潟底質の砂質化、産卵数の減少、調査精度等の影響が考えられますが、明確な原因は明らかになっていません。

#### (2) 推定個体密度

調査範囲から試算した1ヘクタール当たりの推定個体密度は、長浜162個体/ha、南潟201/haでした(図4)。2012年以降、南潟の個体密度が長浜よりも多くなっています。

#### (3) 齢数の構成

前体幅から幼生の齢数を推定したところ、2006年には約7割が7齢(孵化から約4年目)で構成されていましたが、近年は4～6齢の若い齢数の割合が増加し、多様化がみられています(図5)。

#### (4) 生息地点

発見地点・ライン別の個体数をみると、『長浜』は、西側のライン11～20(特に沖側)が減少傾向にあります(図6・図7)。南潟はライン4が2013年から減少傾向にあります(図6)。



図3 カブトガニ幼生の発見個体数



図4 カブトガニ幼生の推定個体密度

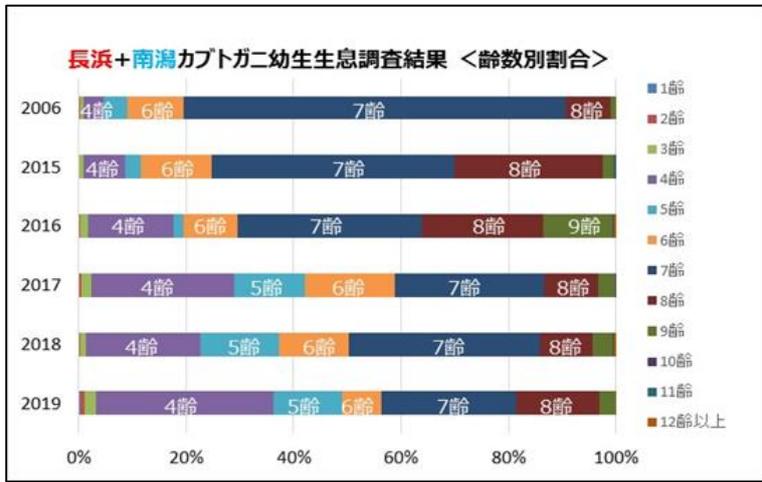


図5 カブトガニ幼生の年齢

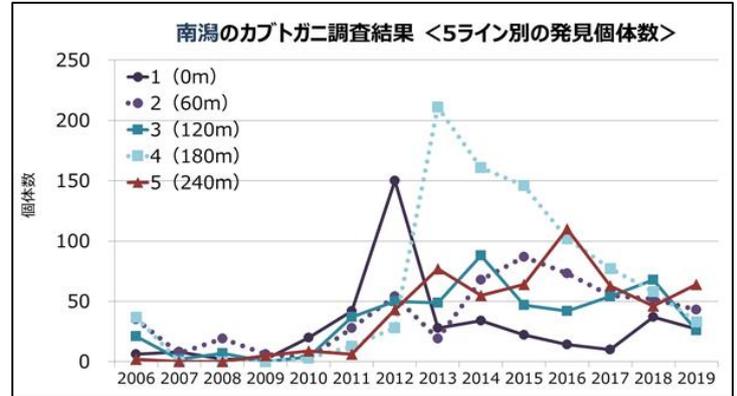
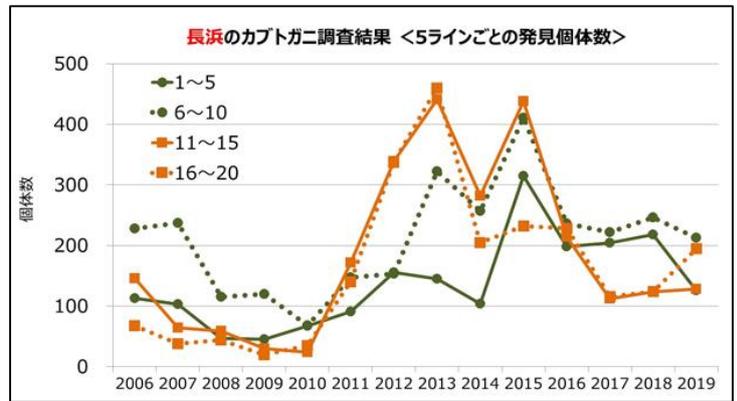


図6 カブトガニ幼生の発見個体数（ライン別）

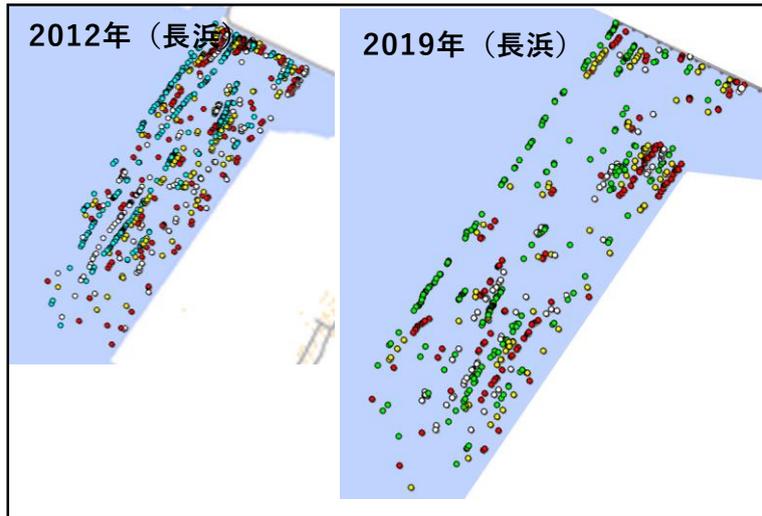


図7 カブトガニ幼生の発見地点の比較（2012年・2019年）

### 3 産卵調査

#### (1) 調査

- ・ 時期：2019年6月～8月 ・ 場所：周防大橋東岸
- ・ 実施者：山口カブトガニ研究懇話会(酒井 大樹 氏からデータ提供)
- ・ 方法：満潮時刻前に、海岸等を歩き、産卵に訪れているつがいを計測

#### (2) 結果

年	つがい数	最高数/日	調査回数	調査時期
2016	411	103	25	7/7～8/17
2017	1,122	143	36	5/26～8/11
2018	701	131	44	5/17～8/12
2019	856	112	35	6/1～8/6

### 4 環境学習活動

- 7月12日、山口市立二島小学校の5年生を対象にした観察会を開催しました。
- 8月20日、小学生等を対象にした観察会を開催しました。参加者：49人（子ども25人）
- 9月18日、自然再生協議会全国会議において、環境省・農林水産省・各自然再生協議会等81名が、長浜を視察しました。

### 5 おわりに

山口湾のように、ボランティアや大学等の多くの協力を得て、カブトガニの大規模な生息状況調査を実施している地域は無く、貴重なデータが蓄積されています。本活動は、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017（まもろう部門）」に入賞しており、絶滅の危機に瀕しているカブトガニを守るためのも大切な活動です。今後も活動を継続し、住民等へのカブトガニ保護の啓発に努めていきたいと考えています。